

万年山 (はねやま)

大分県 玖珠郡玖珠町 2024年 5月20日

ミヤマキリシマ満開のお花畑



はなぐり登山口から20分程歩くと、満開のミヤマキリシマが目の前に！

本日のコース <全行程 3時間56分>

はなぐり登山口(鼻線分れ) 9:07 <林間コースで順路と逆回りでスタート> →
お花畑への分岐 9:22 → お花畑を散策 9:29~10:00 → 林間コースへ合流 10:23 →
吉武台(9合目分岐) 10:46 → 万年山山頂 11:04 <昼食休憩> 12:00 →
はなぐり登山口への分岐 12:56 → はなぐり登山口(鼻線分れ) 13:03

万年山にミヤマキリシマの群生があることは知っていたが、この季節にはどうしてもくじゅう連山や阿蘇方面に足が向いてしまう。いつでも行けるだろうと思って、こちらは後回しになっていた。今回初めて訪れた万年山だが、他の山にも勝るとも劣らない必見の光景だった。



はなぐり登山口駐車場 8:59 広いスペース

昨日の山開きでは、1800人も登山客が訪れたようだが、今日はガラガラの状態。



はなぐり登山口(鼻線分れ) 9:02 駐車場の奥に登山口がある

小さなテントが張っており、何かイベントがあるのだろうかと思っていたら…。入山受付の方から、環境保全協力金として500円の入山料(5月19日～27日の期間:小学生までは無料)の支払いを求められた。支払いを終えると、お菓子と紅白餅と山開き記念のペナントを頂いた。そのペナントは入山料の支払い済の証となるので、ザックに付けて歩くように指示された。



ザックにペナント装着完了！

玖珠町は童話の町でもあるので、それに因んで一休さんのイラストがデザインされている。「日本のアンデルセン」と称される玖珠町出身の口演童話家・久留島武彦(くるしまたけひこ)氏<1874—1960>の功績を称え、5月5日(こどもの日)には童話祭りが開催される。玖珠川河川敷では必見の「ジャンボ鯉のぼり」が登場し、その鯉のぼりの中を歩くことも出来る。

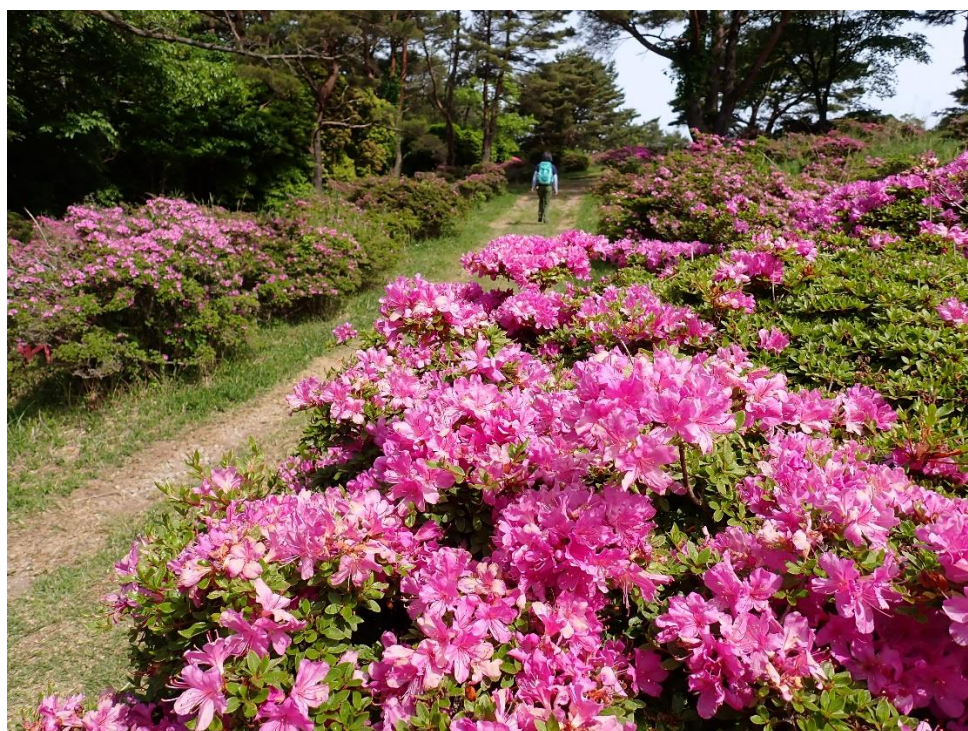


はなぐり登山口(鼻線分れ) <林間コースで順路と逆回りでスタート> 9:07

はなぐり登山口は鼻線分れとも言われるように、ここから道が二つに分かれている。万年山山頂へのルート(順路)は、通常急登を上る右手からの周回になるが、我々はお花畑(ミヤマキリシマの群生)のある、左手の林間コース(コンクリート道)から時計回りで歩くことにした。お花畑のみ観賞する登山客もこちらのルートを利用することになる。



お花畑への分岐 9:22 15分程歩くと分岐表示が現れた
「ミヤマキリシマ群生地」と言う文字に期待を膨らませて左の道を下って行く



植林帯を抜けるとそこはお花畑だった！ 9:29 心ウキウキ
両サイドに満開のミヤマキリシマが並んでいる。鮮やかなピンク色に魅せられ、
ここから歩くペースがグッと遅くなり、なかなか前に進まない。



なんと6年振りのミヤマキリシマとのご対面だった！



一面のミヤマキリシマの群生



素晴らしいミヤマキリシマの群生(お花畑)に圧倒される
気がつけば30分程ミヤマキリシマを觀賞していた



名残を惜しんで… 10:10 ミヤマキリシマ群生地を通り抜けお花畑を後にした
ひんやりした樹林帯の中を進み、当初歩いていた林間コースを目指す。
木々の根元にこんもり低木が茂っている。その低木に咲く白くて小さな花が…。



木陰でも茂るアジサイ科のコガクウツギだろうか？



林間コースへ合流 10:22 左へ進んで山頂を目指す！
植林帯の涼しい木陰を歩いていたが、ここからは直射日光を浴びることになる。



ジリジリ暑いコンクリート道 10:23 淡々と歩くのみ



この先にある吉武台(9合目)の表示を見て少し元気が出てきた 10:30
道端に咲く小さな花の写真を撮っていると、後続の登山者に抜かれてしまった。



キラソウを見つけた



これは ムラサキサギゴケ かな？



吉武台(9合目分岐) 10:46 ここからは長~い300mの階段上りが待っている
左に下れば吉武牧場になるが、万年山のメイン登山口となる。



万年山トレッキングコース概略図
 これを見ると登山コースがよく解かる

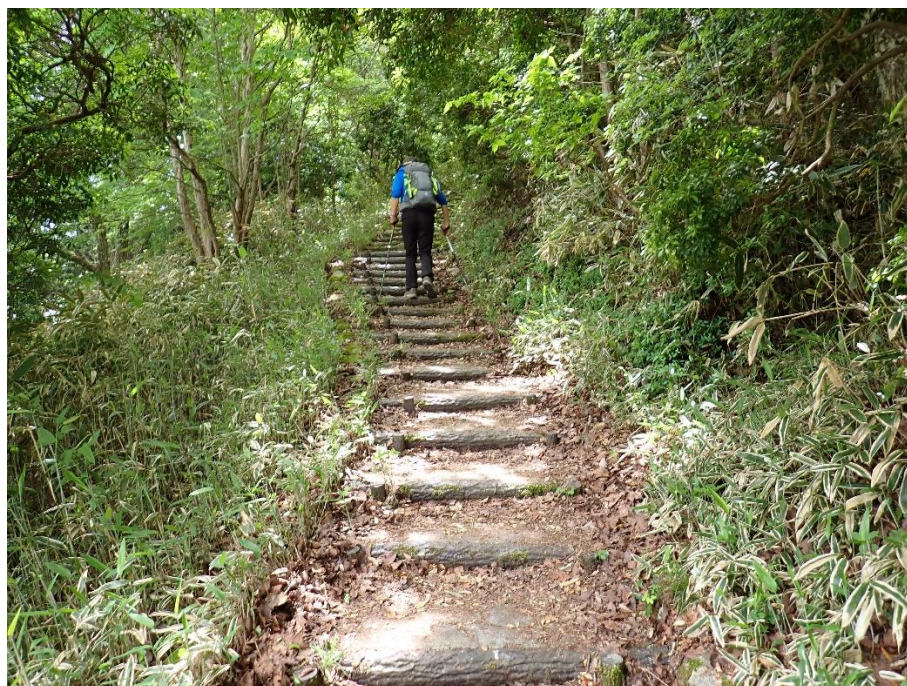


あとひと踏ん張りだ！ 10:48 吉武台(9合目)から山頂へ！



九州自然歩道 <万年山の説明標識> 10:50

万年山は、巨大な溶岩の大地(メーサ)です。この山は、上下二段に分かれた二重メーサで、「下バネ」と呼ばれる大きな溶岩台の上に、更に「上バネ」と呼ばれる溶岩のテーブルが乗った形をしています。山頂一帯には、ミヤマキリシマの群落があり、5月下旬～6月初旬にかけて美しい花が見られます。(説明標識より)



階段を一步、一步 10:54 300mの直登となる



やっと階段が終わって左へ寄り道 11:01



万年山の由来

万年山の地名は、つぎのような由来があります。大昔、樟(くすのき)の巨木を切った時、根元の土をはねあげてできたところから「刎山」(はねやま)と名付けられたということです。また、一説には、万年山の三文字をそれぞれ仮名で書けば「ん」と刎ね上げた音がでるので、山の名を「ハネ山」と名付けたともいいます。(説明標識より)

地元では「まんねんさん」と、親しみを込めて呼ばれることも多いそうだ。



さあ、いよいよ山頂だ！ 11:02



広い山頂台地を山頂碑に向かって進む 11:03



万年山山頂 11:04 1140m

万年山は「耶馬日田英彦山国定公園」に属している。

<玖珠・万年山> (くす・はねやま)

玖珠とは、「豊後国風土記」によれば、「ムカシ、此村ニ、オオキナル樟(クス)ノ樹有リ……」に由来する地名という。万年山(まんねんやま)とは、「昔、この盆地には大層大きな樟の樹がそびえていて、この木陰では作物が育たず里人は困っていた。そんなある日、大男が通りかかったので「あの樹を切り倒して下さい」と里人はお願いした。うなずいた大男は苦心の末、ついにその大樹を切り倒しました。その切り株が、切株山(きりかぶさん)となり、根元からはねあげられた土が山となって万年山(はねやま)になったそうなの」の伝説からだという。

(ネット調べ)



展望抜群のパノラマビュー



右の空いているベンチで<昼食休憩>
くじゅう連山、涌蓋山、阿蘇五岳などを眺めながらのんびり過ごす幸せな時間。



くじゅう連山を望む



涌蓋山(中央)と右奥に阿蘇五岳



英彦山と鷹ノ巣山もうっすら見えた



静かな山頂広場 11:54

この山頂広場も、昨日の山開きではさぞ賑わったことだろう。



昼食を終えて下山開始 12:00 ここからは縦走コースを歩く



ミヤマキリシマと風景を見ながら快適な山歩き 12:03



登山道にミヤマキリシマ 12:25 自然と足取りは軽くなる



展望台に立つT師匠 12:36

西万年はもう通り過ぎたのだろうか？

残念ながら道標や山頂碑を見つけることが出来なかった。



万年山の麓から広がる大地 12:37

下界がパッチワークのようだ。植林帯と自然林の違いなのだろうか？



はなぐり登山口への分岐 12:56
ここから右下へ200mの急坂を下ることになる



急降下開始 12:57 落ち葉で滑りやすいので注意！



200mを一気に下って来た。



はなぐり登山口(鼻線分れ) 13:03 ゴール

朝、「行ってきまーす」とスタートしたが、無事に周回して戻ってきた。

下山後、受付スタッフの方と少し談笑。

お花畑も、山も、最高でした！



約4時間の山歩きが無事に終了 13:07
スマホの歩数計は14328歩。T師匠今日もお世話になりました。
お疲れさまでした。



登山道にヤマツツジも咲いていました。